

# 琉球大学学術リポジトリ

## 平成29年度(2017)発達支援教育実践センター事業報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 公開日: 2018-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/41166">http://hdl.handle.net/20.500.12000/41166</a>

## 平成29年度（2017）発達支援教育実践センター事業報告

琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センターで実施している「トータル支援事業」が本年度で11年の時が過ぎた。2006年10月に始まったその取り組みは兼任のセンター長と専任一人の二人のスタッフでスタートした。そして本年度の10月で12年目に入った本事業が、本年度3月に本センターが廃止となることが決まったことにより、新しい教職センターの事業として次年度から再スタートすることになった。また、本紀要は本9号をもって廃刊となり、同じく教職センター紀要として新しく発刊されることになる。

「トータル支援事業」は発達支援教育実践センターとして地域支援事業、人材育成、実践研究という3つの柱の取り組みをどのように進めていけばよいのかと考えて始まった。地域の子どもたちが支援を受け、保護者の子育てを応援し、現職教員、保育士、支援員、関連領域の専門家のリカレント教育の機会を提供し、大学院生や学生に実践教育の場を与え、行政などと協力して地域に貢献し、実践研究を深める支援を行っていることで、私たちはこの活動およびその場を「トータル支援教室」と呼んできた。

「トータル支援事業」として「支援・相談活動」、「トータル支援教室」、「実践事例研究会」、3つの事業を柱として取り組みを実施してきた。そのなかでも「トータル支援教室」は「支援・相談活動」、「実践事例研究会」と有機的連動的に繋がっており、当センターの中心的事業となっている。小さな当センターで「トータル支援事業」を支えてきたのは当センターの「特別研究員」である。当センターでは、子どもたちを支援・教育する現職の教員や専門家を「特別研究員」として位置づけ、ひとつのチームとして支援教育の実践や研究を実施し地域の力になれるよう努めてきた。その「特別研究員」の協力による、子どもたちへの中核的な支援活動の「場」となる「トータル支援教室」の開催は、子どもたちを支援するとともに子どもたちやその保護者から多くのことを学び、そして地域の教員や関連領域の職員、専門家ともに支援教育のあり方を考えてきた。

「トータル支援教室」を中心とした「トータル支援事業」は地域大学を拠点とした地

域貢献、教育、研究活動を中心とする第1次段階、「出前支援プログラム」を行う第2次段階「トータル支援教室」、「実践事例研究会」、「相談支援」等の取り組みを定着させ、さらに第3次計画では大学から離れた離島・へき地へ地域連携型支援を目的に位置づけ「協働による子どもたちへの支援および教員、支援者の実践力養成システムの構築」、最終的には第4次計画として「地域主導型の支援体制の構築」を目指してきた。本年度まで取り組んできた第1次計画から第4次計画までの各ステージの取り組みに続き、本年度はさらに第5次計画として、地域拠点型連携支援体制を整備することで人材育成を行う拠点体制構築と地域間交流が可能な連携ネットワークの構築を目指した（図1）。

この第1次計画から第5次計画はセンターと各地域との進捗状況を示す計画段階のみを示すものではなく、多様な連携の形態や方式を示すものとなってきた。第1支援方式（第1次計画）として大学拠点型教育・事業（参加型近隣地域支援）連携支援体制であり、大学を中心として開催している「トータル支援教室」、「発達・教育相談」、「実践事例研究会」等による学校支援・個別支援現職教員、学生、支援員、高度専門職業人のための協働による実践力養成支援。第2支援方式（第2次計画）として出前型連携支援体制であり、近隣地域や離島・へき地への「出前支援・出張相談会」、「実践事例研究会」等による支援および実践力養成支援。第3支援方式（第3次計画）として離島・へき地等の地域との協働による支援体制であり、「出前トータル支援教室」、「実践事例研究会」、「協働会議（情報交換会）」、「出張発達・教育相談会」等による支援および実践力養成。そして第4支援方式（第4次計画）として地域拠点型連携支援体制であり、離島・へき地地域主導による「地域主導型トータル支援教室」を通した子ども支援および実践力養成支援、第5支援方式（第5次計画）として地域間交流が可能な連携ネットワークの構築であり、地域間の「トータル支援教室」の取り組みを通して子ども支援および実践力養成支援を考える支援に分けられる。この5つの支援方式により地域支援事業

を行っている。

12月には第4方式として地域拠点型の「トータル支援教室 in 八重山」が八重山教育事務所を中心に石垣市教育委員会、竹富町教育委員会との共催による活動が8年目に入った。八重山の地域スタッフが中心となる八重山トータル支援ネット協働会議は本年度で7年が過ぎた。また、さらなる離島支援として公開講座を6月に八重山で「気になる子どもの理解・子育て・支援～子どもの育ちと学びを支えるトータル支援 in 八重山」と題する研修を、7月に宮古島で八重山と同様の「トータル支援 in 宮古」と題する研修を開催した。公開講座は5年継続で実施されている。

本年度の「トータル支援教室 IN 八重山」は6月と12月に行い、「トータル支援教室 IN 宮古」は6月と1月に行った。宮古教育事務所と宮古福祉事務所との連携は昨年度まで4年継続され、さらに本年度は宮古福祉事務所との連携により5年目の取り組みとなった。「出前トータル支援教室」、「協働会議（情報交換会）」、「出張発達・教育相談会」等の開催による第3次方式を実施した。

「トータル支援教室 IN 中部」はその活動の拠点を大学に移して実施するようになった。一日キャンプは7年目になり中頭教育事務所との共催で行った。また、沖縄特別支援教育研究会は12月に7回目の共催により開催された。県立西崎特別支援学校が大会事務局となった。本研究会は実践研究を報告された教諭たちとともに実践を議論し学び合う場となっており県内特別支援教育の実践の大きな発信機能を有するようになっている。

センターにおいて昨年度までの5年間、取り組んできた「海プロジェクト（日本財団）」や一昨年度まで3年間、参画し実施してきた沖縄県委託事業『学力向上先進地域育成事業』への「気になる子どもたちへの支援教育と教員への実践力養成システムの構築-「トータル支援教室」の学校支援の展開と「向かう力・受けとめる力」を育む教育実践-」はそれぞれ終了したが、そのような過去の事業の成果により離島地域との交流が深まってきた。各学校で実施されるようになった。

9月には愛知県で開催された「特殊教育学会」で学校におけるトータル支援の実践について、今までの「トータル支援教室」の取り組みによる成果を報告した。さらにその成果を1月に行われた教育学部の事業報告会において報告した。浜田寿美男氏（奈良女子大学名誉教授）を招聘し当セ

ンターの第12回目の記念公開発達支援教育実践セミナーおよび「トータル支援教室」の事業による実践研究の成果報告を行った。石垣、宮古、久米島の大学サテライト会場へライブ配信し全体で120名の参加者があり、関心の高さが伺われた。

発達支援教育実践センターの事業やその取り組みは県内、県外に認知され、本センターが廃止されても、新しい教職センターの継続事業として、より一層の地域貢献への努力を行う計画である。

### 発達支援教育実践センターのプロジェクト

#### 大学中期計画プロジェクト

事業名：「障害児・者の支援・教育に関わる学生・教員の実践力養成機能の充実と地域の学校や教育行政機関との協働支援を行う地域拠点の構築と地域間の連携・協働」事業

協働機関：八重山教育事務所、宮古教育事務所、宮古福祉保健所、石垣市教育委員会、宮古島市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会、多良間村教育委員会

実施期間：平成29年4月～平成30年3月

#### 公開講座

事業名：『支援を必要とする子どもたちと「ともに楽しむ」実践と「チーム支援」の充実』

協働機関：石垣市、宮古島市、久米島町、那覇市

実施期間：平成30年1月7日（琉球大学 法文新棟215教室）

### ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）事業：地域志向教育推進事業

事業名：『離島やへき地と近隣地域の発達が気になる子への幼・小連携による「トータル支援」と地域協働支援』

『離島やへき地と近隣地域の障害児への乳幼児期からの保・幼・小連携による「トータル支援教室」と地域協働支援』

協働機関：八重山教育事務所、宮古教育事務所、国頭教育事務所、那覇教育事務所、島尻教育事務所、中頭教育事務所、宮古福祉保健所、名護市教育委員会、多良間村教育委員会、竹富町教育委員会

実施期間：平成29年4月～9月、平成29年10月～平成30年3月

## 琉球大学後援財団教育研究奨励事業

事業名:「支援を必要とする子どもたちと『ともに楽しむ』実践と『チーム支援』の充実」

実施期間:平成 30 年 1 月 7 日 (日) 10 時 ~ 17 時

## 発達支援教育実践センターの地域連携プロジェクト

:関係機関および付属小・中学校への共同研究および連携支援

以下の関係機関への支援、および連携による共同研究、共同支援を行った。教育事務所、教育委員会、学校、特別支援学級などそれぞれの関係機関の規模、形態、ニーズに合わせた連携を行った。

### センター主催

①活動名:トータル支援 IN 八重山

活動内容:保護者、教員への発達・教育相談、トータル支援教室の合同支援、協働会議、実践事例研究会による特別支援教育支援員実践力の養成支援

機関名:八重山教育事務所 石垣市教育委員会  
竹富町教育委員会 与那国町教育委員会

②活動名:トータル支援教室 IN 宮古・多良間

活動内容:保護者、教員への発達・教育相談、トータル支援教室の合同支援、協働会議

機関名:宮古教育事務所 宮古福祉保健所 宮古島市 宮古島市教育委員会 多良間村 多良間村教育委員会

③活動名:トータル支援教室 IN 中頭

活動内容:トータル支援教室 (野外活動)

機関名:中頭教育事務所

④活動内容:トータル支援教室 IN 島尻

活動内容:保護者、教員への発達・教育相談、トータル支援教室の合同支援、協働会議による特別支援教育支援員実践力の養成支援

機関名:島尻教育事務所

⑤活動内容:トータル支援教室 IN 国頭

活動内容:保護者、教員への発達・教育相談、トータル支援教室

機関名:国頭教育事務所

⑥活動内容:トータル支援教室 IN 那覇

活動内容:久米島地域における保護者、教員への発達・教育相談

機関名:那覇教育事務所

### センター共催

共催

①活動名:沖縄特別支援教育研究大会 (西崎特別支援学校)

内 容:特別支援教育に関する分科会

機関名:沖縄特別支援教育研究会

②活動名:公開講座

内 容:「支援を必要とする子どもたちと『ともに楽しむ』実践と『チーム支援』の充実」

機関名:琉球大学生涯学習教育研究センター

③活動名:キミヤーズ塾 in 沖縄

内 容:コミュニケーション「楽しいね」の巻

機関名:キミヤーズ塾

### 大学拠点型事業 (教育学部附属発達支援教育実践センター)

#### トータル地域支援事業

① トータル支援教室:月 2 回、年 14 回開催

支援スタッフ:センタースタッフ・特別研究員・現職教員・院生・学部生

支援対象:県内の発達障がい児等支援・保護者子育て支援  
(4 回は八重山教育事務所、宮古教育事務所:特別研究員との合同研修)

② 教育・発達相談支援・発達臨床支援

:86 事例 :701 セッション

宜野湾市、浦添市、西原町、那覇市、中城村等から来室

対象:障害児、保護者、教員、保育士等

③ 実践事例研究会:月 1 回 年 11 回開催

対象:現職教員、支援員、保育士、関係職種等

④ 発達支援教育実践セミナー & 実践研修会

(センター事業成果報告、基調講演、実践報告会)

後援:沖縄県、県教育委員会

場所:琉球大学法文新棟 215 教室

時:平成 30 年 1 月 7 日 (日)

#### 県全地域支援事業

・平成 29 年度特別支援学級通級指導教室担当者悉皆研修

主催:沖縄県教育庁県立学校教育課

講師:発達支援教育実践センタースタッフ・特

## 別研究員

- ①国頭地域 場所:名護青少年の家 時:8月1日(火)
- ②中頭地域 場所:嘉手納中央公民館 時:8月2日(水)
- ③那覇・浦添地域 場所:てだこホール市民交流室 時:8月3日(木)
- ④島尻地域 場所:八重瀬中央公民館 時:8月8日(火)
- ⑤八重山地域 場所:八重山教育事務所 時:8月9日(水)
- ⑥宮古地域 場所:宮古教育事務所 時:8月10日(木)

## 国頭地域支援事業

- ①国頭トータル支援教室:年1回  
共催:国頭教育事務所  
場所:国頭教育事務所 時:10月21日(金)・11月3日(金)

## 中頭地域支援事業

- ①中頭トータル支援教室(野外活動):年1回  
共催:中頭教育事務所  
場所:琉球大学構内 時:7月29日(土)  
(発達障がい等のある子どもたちへの野外活動体験)

## ②幼稚園・小学校実践研究

- A. 公開校内研究会:読谷村立古堅幼稚園  
場所:読谷村立古堅幼稚園 時:4月~6月(週2日)
- B. 公開校内研究会:読谷村立古堅小学校  
場所:読谷村立古堅小学校 時:4月~3月(週1日)
- C. 公開校内研究会:北谷町立北谷第二幼稚園  
場所:北谷町立北谷第二幼稚園 時:4月~6月(週3日)
- D. 公開校内研究会:大謝名小学校  
場所:宜野湾市立大謝名小学校 時:4月~3月(月1日)

## 那覇・浦添地域支援事業

## ①教育支援委員会

- 那覇市教育委員会 適正就学支援委員会(学識経験者 浦崎武)  
実施期間:平成18年4月~平成30年3月  
浦添市教育委員会 適正就学支援検査員(武田喜乃恵)  
実施期間:平成29年4月~平成30年3月

## ②那覇市教育委員会学習障害児等専門家チーム巡回

- 那覇市教育委員会(学識経験者 浦崎武)  
実施期間:平成26年4月~平成30年3月

## 島尻地域支援事業

- ①島尻トータル支援教室:年1回  
共催:島尻教育事務所  
場所:島尻教育事務所 時:11月23日(木・祝)・11月25日(土)
- ①島尻地区特別支援教育総合推進事業運営協議会  
期間:平成26年4月1日~平成30年3月31日  
開催日:第1回 平成29年7月25日、第2回  
平成30年1月31日  
会場:島尻教育事務所

## 宮古・多良間地域協働支援事業

- ①宮古・多良間トータル支援教室:年2回(特別研究員合同研修)  
共催:沖縄県子ども生活福祉部(宮古福祉保健所)、沖縄県教育委員会(宮古教育事務所)、宮古島市、宮古島市教育委員会、  
場所:宮古教育事務所  
時:第1回 平成29年6月30日(金)~7月2日(日)  
第2回 平成30年1月13日(土)  
参加支援者:現地教員・福祉施設職員・保健師・臨床心理士・センタースタッフ  
・本島特別研究員  
支援:宮古地域の発達障がい児支援・保護者子育て支援

## プログラム:

- 1) トータル支援教室IN宮古・多良間  
第1回 場所:宮古保健所 時:平成29年7月1日(土)  
第2回 場所:宮古保健所 時:平成30年1月13日(土)
- 2) 宮古トータル支援ネット協働会議  
第1回 時:6月30日(金)  
参加者:宮古トータル支援ネット連携会議メンバー
- 3) 公開講座  
主催:琉球大学 共催:沖縄県教育委員会  
後援:沖縄県  
場所:宮古中央公民館2階 時:7月2日(日)

## 地域拠点型事業（八重山教育事務所）

発達支援教育実践センターは八重山をひとつのモデル地域として、今後、宮古地域や他地域へと事業を拡大させ、第 1 次計画から第 4 次計画へと発展させていきたい（図 1）。

### 八重山地域協働支援事業 トータル支援ネット IN 八重山

#### ①八重山トータル支援教室：年 2 回（特別研究員合同研修）

共催：八重山教育事務所・石垣市教育委員会・竹富町教育委員会・与那国町教育委員会

場所：八重山教育事務所

時：第 1 回 6 月 9 日（金）～6 月 11 日（日）

第 2 回 12 月 8 日（金）～12 月 9 日（土）

参加支援者：八重山地域特別研究員・学生・現職教員・関係職種職員

- ・センタースタッフ・本島特別研究員

支援：八重山地域の発達障がい等のある子どもたちへの支援・保護者子育て支援

プログラム：

#### 1) トータル支援教室 IN 八重山

第 1 回 時：6 月 10 日（土） 第 2 回 時：12 月 9 日（土）

#### 2) 八重山トータル支援ネット協働会議

第 1 回 時：6 月 9 日（金） 第 2 回 時：12 月 8 日（金）

参加者：八重山トータル支援ネット連携会議メンバー

#### 3) 教育・発達相談支援

第 1 回 時：6 月 9 日（金） 第 2 回 時：12 月 8 日（金）

参加者：保護者、教員、支援員、福祉職員

#### 4) 実践事例研究会

第 1 回 時：6 月 9 日（金） 第 2 回 時：12 月 8 日（金）

参加者：教員、支援員、福祉職員、その他関連領域の専門家

#### 5) 公開講座

第 1 回 時：6 月 11 日（日）13 時～15 時

会場：石垣市立図書館

内容：「気になる子どもの理解・子育て・支援—日常・保育・教育のトータルな支援—in 八重山」

参加者：7 人

## 地域支援プロジェクト計画

第 1 次計画（第 1 支援方式）：大学拠点型（参加型）連携支援体制の構築（近隣地域支援）

（現職教員、学生、支援員、高度専門職業人のための協働による実践力養成支援）

第 2 次計画（第 2 支援方式）：出前型連携支援体制の構築（離島・へき地支援、実践力養成）

第 3 次計画（第 3 支援方式）：地域との協働による実践力養成システムの構築（離島・へき地との協働・連携による支援、実践力養成支援）

第 4・5 次計画（第 4・5 支援方式）：地域拠点型連携支援体制の構築および地域間の連携・連携（離島・へき地主導による実践力養成支援）

## 1. 実践教育・臨床支援活動

活動の中心である『トータル支援教室』では、大学教員、学部学生、院生、現職教員、心理士等が参加して発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちの参加による実践教育支援、及び実践研究を目的として定期に集団支援、個別支援、連携支援を行っている。特に本年度は現職教員、学部学生、院生、特別研究員、特別支援教育支援員等の参加者により協働の多様な取り組みとなった。この『トータル支援活動』は地域支援を行うとともに学生、院生、現職教員、臨床発達心理士等にとって支援教育のための実践を学ぶ活動となる。発達支援教育実践センターは発達支援および特別支援教育における地域貢献及び特別支援教育に貢献する人材育成を大切な課題として位置づけ、実践教育・臨床支援活動に取り組んでいる。

### （1）個別実践教育・臨床活動

本センターでは、個別臨床活動支援として母親面接、教員面接、子どもへの実践教育臨床支援を行っている。その支援内容は発達支援、教育支援、適応支援、子育て支援の 4 つ柱を中心としている。発達障害や特別支援教育に関する認知は高まってきたが、支援や支援体制を具体的に考えることが今後の発達支援教育・特別支援教育の課題である。本センター学生、院生、現職教員との連携により支援を充実させ、さらなる一層の地域貢献を目指している。

### （2）集団教育支援・臨床活動

子どもたちの集団活動として『トータル支援教室』を実施している。この集団支援教室はスタートして 11 年が過ぎた。この活動は子どもたちを支援するとともにセンターと地域や学校との連携ネットワークを拡げ発達支援・特別支援教育の支

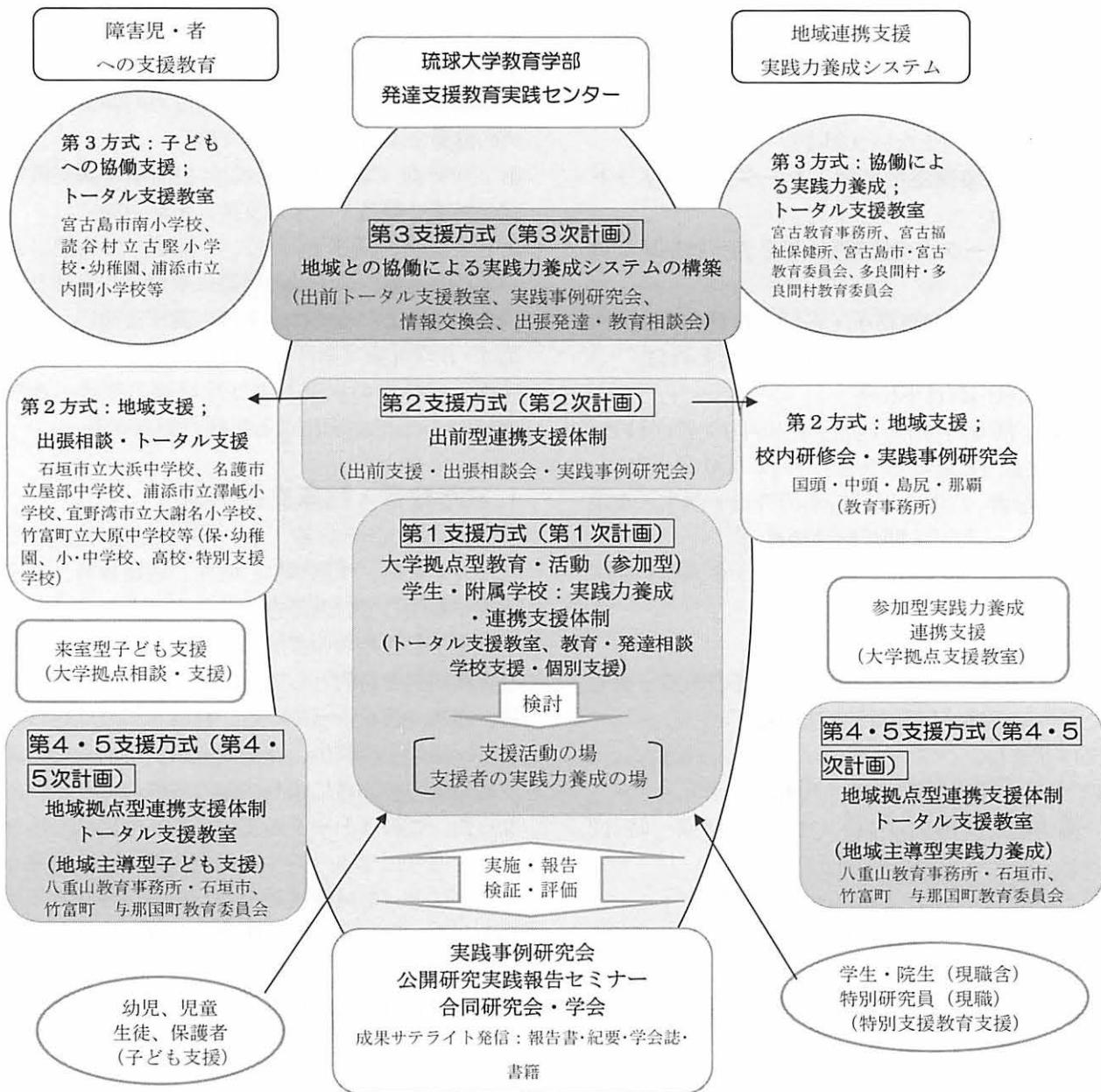


図1 地域支援プロジェクト計画

援体制のより良い方向性を求める活動である。

センターでは『トータル支援教室』を『発達支援教育実践 A』、『発達支援教育実践 B』のセンター提供の講義・演習として位置付けている。この講義・演習は琉球大学のちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）事業：地域志向教育推進事業による地域貢献型の講義・演習として前期、後期の2回の助成を一昨年度から受けているが、その取組も3年目を迎えた。

センター専任が主任を担当する特別専攻科の学生にも多くの実践教育を学ぶ場を提供してきた。前期の『発達支援教育実践 A』において「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業に参画

しより一層、授業を充実させ地域志向教育推進を図ることで実現した。

また、このトータル支援教室は、学生、院生、現職教員にとって発達支援・特別支援教育のための実践力の養成する活動である。センターはこの教室に参加することにより多様な子どもたちと関わる視点を学んでもらい、その成果を、現場の発達支援・特別支援教育へ還元すること目的としている。この教室での実践研究の成果はセンター主催の発達支援教育実践セミナーにおいて、1月に報告した。

### (3) 実践教育・臨床支援ケースの概要

平成29年1月から平成29年12月までの1

年間の月別セッション数を表 1 に示した。来所相談、訪問相談を合わせて、セッション数は総計 701 セッションになった。昨年は、870 セッションであったので、169 セッション減少した。学校での教育実践が増えたことにより、個々の相談対応の割合が減少した。トータル支援プログラムの個別支援セッションが昨年の 4 セッションから 3 セッションへと減少した。トータル支援プログラムの個別セッションは大学院の実践演習を兼ねていることもあり今年度は大学院生の参加が少なかったことが影響している。

また子どもへの発達・教育・心理支援のセッション数は 14 セッションであり、昨年の

23 セッションより減少した。学校での教育実践が増えたことにより、個々の相談対応数が減少した。昨年度、支援を行った事例数は 191 事例であったが、今年は 86 事例に減少した。今年度は、例年行っている八重山及び宮古地域に加え

て、新たに国頭、島尻、久米島でも支援活動を行ったことにより事例数が増えた。

一方、親面接は昨年度 270 セッションであり本年は 153 セッションとなり相談数は減少した。昨年の子どもの行動観察は 222 件であり、本年度は 126 件に減少した。そしてその行動アセスメントにそって保護者、教員、保育士とともに考える形態の相談も行った。

宜野湾市保育課の地域の保育園の巡回やセンターの相談員による浦添市教育委員会の巡回による依頼等を受けて支援を行った。『トータル支援 IN 八重山』、『トータル支援 IN 多良間・宮古』等の離島・へき地の支援ニーズがあり相談も行った。特に今年から新規に取り組みが始まった『トータル支援 IN 島尻』、『トータル支援 IN 国頭』、久米島支援等により事例数が増えた。

表 1 臨床活動 セッション数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
親面接(カウンセリング含む)セッション数	12	13	12	12	8	14	12	11	10	13	18	18	153
教員面接(スーパー・ヴィジョン含む)セッション数	19	22	19	24	21	22	23	26	17	21	25	20	259
子どもの行動観察(アセスメント)	13	0	13	11	11	9	11	14	9	13	12	10	126
子どもへの発達・教育学習・適応支援(心理療法含む)セッション数	1	2	1	1	0	3	1	1	2	0	1	1	14
実践トータル支援プログラム(個別支援)セッション数	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
実践トータル支援プログラム(集団適応支援)セッション数	10	0	0	5	14	31	26	11	5	11	22	11	146
合計	57	38	45	53	54	79	73	63	43	58	78	60	701

#### (4) 実践教育・臨床支援ケースの診断別内訳

表 2 には診断別内訳を示した。相談対象のなかで多い障害は自閉症スペクトラム障害(知的な遅れを伴う自閉症)であり、約 27% を占め、自閉スペクトラム症(高機能自閉症)を含めると約 52% となり全体の約半数を占めた。

表 2 臨床活動 診断別内訳

診 断 名	事 例 数
自閉症スペクトラム症(知的な遅れを伴う自閉症)	23
自閉症スペクトラム症(高機能自閉症)	22
精神遅滞(知的障害)	19
注意欠如多動性障害(ADHD)	10
学習障害(L.D.)	0
情緒障害(虐待、緘黙、不登校含む)	5
聴覚障害	0
言語障害	0
ダウン症候群	3
境界知能	0
身体障がい	1
その他	3
計	86

## (5) 実践教育・臨床支援ケースの地域別支援内訳

相談ケースの地域別内訳を以下の表3に示した。昨年と同様に宜野湾市、浦添市、八重瀬町などの大学周辺の市町村からの相談（約46%）を多く受けた。また本年も、離島地域での相談（約37%）も受けた。

表3 相談ケースの地域別内訳

相談ケースの地域別内訳	事例数
石垣市	43
宜野湾市	40
浦添市	39
宮古島市	25
八重瀬町	11
名護市	9
南風原町	5
与那原町	5
南城市	5
うるま市	3
竹富町	3
那覇市	2
沖縄市	2
渡名喜村	2
読谷村	1
豊見城市	1
糸満市	1
総計	197

## 2. 社会教育活動

平成18年10月より支援を必要とする子どもたちと特別支援教育について学ぶ学生、院生、現職教員、さらに子どもたちの通う学校がともに関わりをもつトータル支援教室がスタートした。専門機関としての大学の発達支援教育実践センターと公立の小学校とが連携して子どもたちを支援することがこの活動のねらいである。

### (1) トータル支援教室

保護者や学校から障害のある子どもや支援を必要とする子どもたちの実践支援の要望を受けて、トータル支援活動を行っている。以下のような目的で活動している。

- 支援を必要とする子どもたちやその保護者への支援
- 支援活動を通して子どもたちやその保護者への

特別支援教育について学ぶ学生や現職教員、関係領域・機関の専門家等への実践教育支援

③学校・教育行政との連携支援

④支援活動を通して子どもたちについての理解の方法、支援の方法等、実践に役立つ支援に関する研究

支援活動は、学生、大学院生、保育士、小学校、中学校、特別支援学級、特別支援学校の現職教員の参加により子どもたちへの支援として個別支援活動と集団支援活動、保護者同士の情報交換を行っている。以下のような支援課題と目的で活動をしている。

#### 1) 個別支援活動

個別支援においては関係性に基づいた「生きる力」を育むために子どもたちの物事へとく向かう力を育むことを目的としている。

#### 2) 集団支援活動

集団支援においては子どもたちの物事へとく向かう力を集団で育むことを目的としている。

#### 3) 子育て支援活動

子育て支援においては子どもをもつ親の気持ちを支え、子どもたちの「生きる力」を大切にする子育て支援を目的としている。

第2・4水曜日、月2回のペースで琉球大学教育学部発達支援教育実践センターを会場として以下のよう支援活動を行った。ここでは2017年1月から12月までの第166回から第179回までの活動を示す。また、その活動の内容を表4に、支援活動参加者数を表5に示す。

表5 集団支援活動の内容

回	活動日	活動内容
166	2017年1月11日	人間十ごろく
167	2017年1月25日	タイムカプセルづくり
168	2017年4月26日	ドキドキワクワク！オリジナル神経衰弱
169	2017年5月10日	うわわバタバタ ぶわミントン
170	2017年5月24日	ツヨコレ♪～世界にひとつだけのカサ～
171	2017年6月14日	とばせ！オリジナル紙ひこうき
172	2017年6月28日	日指せ！ホールインワン！
173	2017年7月12日	はっぴでハッピー夏祭り
174	2017年7月29日	トータル支援教室特別企画 IN 琉大～夏の野外活動～
175	2017年8月16日	ドミノスイッチ IN 琉大
176	2017年10月25日	ドミノピザ
177	2017年11月8日	びびるビル
178	2017年11月22日	ねらえ！ストライク！ペットボーリング
179	2017年12月13日	作ってあそぼ！モーモーモー

表 6 支援活動参加者数

活動日\参加者数	子ども	親	学部学生・特別専攻科	他学部学生	院生	特別支援教育支援員	現職教員	近接領域の専門家	センタースタッフ	その他	合計
2017年1月11日	5	5	16	0	1	0	0	0	2	0	29
2017年1月25日	5	5	16	0	1	0	0	0	2	0	29
2017年4月26日	5	4	15	0	1	0	4	0	2	2	33
2017年5月10日	6	5	14	0	1	0	2	0	2	2	32
2017年5月24日	6	5	17	0	1	0	2	0	2	0	33
2017年6月14日	4	3	9	0	1	0	0	1	2	2	22
2017年6月28日	6	5	17	0	1	0	1	0	2	0	32
2017年7月12日	5	5	16	0	1	0	2	5	2	0	36
2017年7月29日	6	5	17	0	1	0	4	1	2	1	37
2017年8月16日	4	3	4	0	1	1	1	0	2	1	17
2017年10月25日	5	4	20	2	1	0	1	0	3	0	36
2017年11月8日	5	4	17	2	1	0	0	0	3	0	31
2017年11月22日	6	5	18	0	1	0	0	0	3	0	33
2017年12月13日	6	5	18	0	1	0	0	0	3	0	33

## (2) 公開セミナー（実践トータル支援プログラムの研究成果報告）

### 1) 公開セミナー

地域社会への貢献を目的にした公開セミナー（センター活動の実践研究成果の報告）を『支援を必要とする子どもたちと「ともに楽しむ」実践と「チーム支援」の充実』というテーマのもと、琉球大学法文学部法文新棟 215 教室において平成 30 年 1 月 7 日（日）に開催した。本年度で 12 回目を迎え、浜田寿美男氏（奈良女子大学名誉教授）を講師として招聘した。基調講演および研究成果の報告に対するコメントを頂いた。今回は宮古島、石垣島、久米島、那覇市へ大学からライブ配信することができた。サテライト会場を含め教員、保育士、学生、発達支援に携わる専門家、支援員、保護者など様々な領域の方々、約

120 名のご参加を戴き実りのあるセミナーとなつた。

本年度は当センターで行っているトータル支援教室の取り組みが 12 年目に入ったので、今までの当センターで実践し、研究してきたトータル支援教室の取り組みの成果を発表した。また、トータル支援教室の実践を学校における教育実践として取り組んできた読谷村立古堅小学校、浦添市立沢崎小学校、沖縄県立鏡が丘特別支援学校の報告も行った。また、那覇少年鑑別所の処遇についての報告も行った。学校および教育関係機関を含めた各領域の専門機関からの参加者に実践から学ぶ教育の機会を提供することができた。また、アンケートを通して地域のニーズの大きさや活動への関心の度合いを確認することができた。

前回のセミナーに引き続き、多くの発達支

援、特別支援教育に熱心な関係者の参加を得ることができ、センターの取り組みへの関心の高さを感じた。また、今後の教職センターを拠点としたネットワーク作りの発展の可能性を感じさせるセミナーとなった。

公開発達支援教育実践セミナー『支援を必要とする子どもたちと「ともに楽しむ」実践と「チーム支援の充実」 一トータル支援の実践と子どもたちの「向かう力」により育まれるもの』

日 時：平成 30 年 1 月 7 日 日曜日 10 時～ 17 時

会 場：琉球大学 法文新棟 215 教室

共 催：沖縄県教育委員会

後 援：沖縄県

参加者：約 100 人

司 会：浦崎武：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター専任

講 師：浜田寿美男（奈良女子大学 名誉教授）

プログラム：

午前の部：

・10 時 10 分～ 11 時 30 分

・『トータル支援を活かした子どもたちの「向かう力」を育む教育実践とチーム支援』

大城麻紀子（鏡が丘特別支援学校教頭・センター特別研究員）

・『法務教官としてトータル支援を通して考えたこと：「受けとめる力」のかたち』

久志峰之（那覇少年鑑別所法務教官、センター特別研究員）

・11 時 40 分～ 12 時 30 分

・午前の部統括：『子どもの「向かう力」と「受けとめる力」を育む「ともに楽しむ」授業実践』

瀬底正栄（沖縄県教育庁県立学校教育課特別支援教育室指導主事）

・コメント 浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）

午後の部：13 時 30 分～ 17 時

・13 時 30 分～ 14 時 50 分

・『子どもたちを「受けとめる」ことから「向かう力」を考える：トータル支援の実践を通して』

武田喜乃恵（発達支援教育実践センター特別研究員）

・『チームとしての学校と協働による授業づくりを通した「向かう力」の育ち』

崎濱朋子（読谷村立古堅小学校校長・センター特別研究員）

・コメント 浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）

・15 時～ 15 時 50 分

全体総括『トータル支援の実践と子どもたちの「向かう力」により育まれるもの』

浦崎武（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター教授）

・16 時～ 17 時

・講演『子どもたちの「向かう力」と社会への参加のかたち』

浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）

### （3）離島・へき地及び近隣地域との活動と参画事業

第 1 回は外部相談員として山上雅子氏（元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ）の協力を得て、専任教員浦崎武、事例提供者として大学院生の武田喜乃恵の 3 人で参加した。そして第 2 回は平成 21 年 3 月 5 日、6 日に当時のセンター長奥田実、専任教員浦崎武、特別研究員の瀬底正栄、崎濱朋子、武田喜乃恵および現職教員の金城明美、6 人で教育学部共同研究経費によりスタッフの人数を増やして出前トータル支援教室を開催した。第 4 回八重山出前支援は学部プロジェクトとして 21 世紀おきなわ子ども教育フォーラムに参画し実施した。第 1 回、東村出前支援に関しては財団法人宇流麻財団の助成を得て行った。第 5 回、第 6 回八重山出前支援は第 4 回同様、学部プロジェクトとして 21 世紀おきなわ子ども教育フォーラムに参画し実施した。第 5 回の記事は平成 22 年 3 月 8 日八重山毎日新聞に、同年 3 月 18 日に琉球新報に、第 6 回の記事は平成 22 年 9 月 4 日、5 日に地元紙八重山毎日新聞、同年 9 月 12 日に琉球新報に掲載された。第 2 回東村教育委員会の連携により東村立東小学校で出前支援を 10 月に行う予定であったが台風の影響を受けて中止となった。第 7 回～ 9 回の八重山出前支援は平成 23 年 3 月 4 日～ 5 日、同年 6 月 17 日～ 19 日、同年 10 月 14 日～ 16 日に行つた（海を活かした教育に関する実践研究・21 世紀おきなわ子ども教育フォーラム）。八重山地域の教諭、支援員による現地スタッフが参加し、支援活動を行った。平成 24 年から平成 27 年度、日本財団による「海を活かした教育に関する実践」、平成 25 年から平成 27 年度、沖縄県委託事業の「学力向上先進地域育成事業」、平成 27 年

度から本年度、「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）事業」に参画し、八重山地域と宮古地域にトータル支援活動を実施した。

### 1) 八重山地域に關わる協働活動

①第 19 回八重山出前支援 平成 29 年 6 月（八重山教育事務所との連携）：支援プログラム参加者総数 48 人

#### A. 個別相談会

日時：6 月 9 日（金）11 時～16 時 30 分

会場：八重山教育事務所

担当：浦崎武（臨床心理士）、武田喜乃恵（臨床発達心理士）

一組の相談時間は 50 分、計 10 組（10 人）の相談を行った。

#### B. 事例検討・協働会議

日時：6 月 9 日（金）18 時～19 時 30 分

会場：八重山教育事務所

連携関係部局“トータル支援ネット IN 八重山”的メンバーで、八重山の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行った。

参加者：6 人

#### C. 集団支援教室

日時：6 月 10 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分

会場：八重山教育事務所

企画タイトル：「いろいろ転がせ！ボーリング大会」

参加者：25 人（子ども 10 人（内兄弟 2 人）、親 7 人、本島支援スタッフ 3 人、八重山支援スタッフ 5 人）

#### D. 公開講座

日時：6 月 11 日（日）13 時～15 時

会場：石垣市立図書館

内容：「気になる子どもの理解・子育て・支援—日常・保育・教育のトータルな支援—in 八重山」

参加者：7 人

②第 20 回八重山出前支援 平成 29 年 12 月（八重山教育事務所との連携）：支援プログラム参加者総数 53 人

#### A. 個別相談会

日時：12 月 8 日（金）9 時～17 時、12 月 9 日（土）9 時 30 分～12 時 30 分

会場：八重山教育事務所

担当：浦崎武（臨床心理士）、武田喜乃恵（臨床発達心理士）

一組の相談時間は 50 分、計 9 組（9 人）の相談を行った。

#### B. 事例検討・協働会議

日時：12 月 8 日（金）18 時～19 時

会場：八重山教育事務所

連携関係部局“トータル支援ネット IN 八重山”的メンバーで、八重山の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行った。

参加者：10 人

#### C. 集団支援教室

日時：12 月 9 日（土）14 時 30 分～16 時 30 分

会場：八重山教育事務所

企画タイトル：「ぽんぽんカーリングで遊ぼう」

参加者：24 人（子ども 5 人、親 6 人、本島支援スタッフ 4 人、八重山支援スタッフ 6 人、見学者 3 名）

#### D. 事例検討・協働会議

日時：12 月 8 日（金）18 時～19 時

会場：八重山教育事務所

内容：「保健室と特別支援」

参加者：10 人

#### ③拠点型支援 平成 29 年 8 月

#### A. 集団支援教室

日時：8 月 19 日（土）9 時 30 分～10 時 20 分

会場：石垣第二中学校

企画タイトル：「ふうせんワールド」

参加者：17 人（子ども 7 人（内兄弟 2 名）、親 3 人、本島支援スタッフ 3 人、八重山支援スタッフ 4 人）

#### ④拠点型支援 平成 29 年 11 月

#### A. 集団支援教室

日時：11 月 11 日（土）14 時～16 時

会場：八重山教育事務所

企画タイトル：「びびるビル」

参加者：16 人（子ども 5 人、親 3 人、本島支援スタッフ 4 人、八重山支援スタッフ 4 人、）

#### ⑤巡回幼稚園・学校支援

#### A. 石垣市立石垣中学校

i 日時：10 月 5 日（木）、10 月 19 日（木）、11 月 29 日（水）、12 月 18 日（月）

内容：訪問指導

ii 日時：10 月 7 日（土）、11 月 11 日（土）、11 月 20 日（月）、12 月 29 日（金）、平成 30 年 1 月 4 日（木）、1 月 19 日（金）

内容：トータル支援教室の打ち合わせ・準備・実施・振り返り

iii 日時：11 月 5 日（日）、11 月 9 日（木）、11 月 20 日（月）、12 月 29 日（金）、平成 30 年 1 月 4 日（木）、1 月 19 日（金）

内容:地域における打ち合わせ、協働活動、連携のための情報交換

B. 石垣市立おおかわ幼稚園

i 日時:9月22日(金)、10月6日(金)、10月20日(金)、11月6日(月)、11月9日(木)、11月19日(日)、11月21日(火)、11月29日(水)11月30日(木)、12月18日(月)、12月28日(木)、平成30年1月19日(金)、

内容:訪問観察・指導

ii 日時:11月9日(木)、11月19日(日)、11月21日(火)、平成30年1月19日(金)

内容:幼・小連携

C. 石垣市立まきら幼稚園

i 日時:11月20日(月)、11月30日(木)、12月18日(月)、12月28日(木)、平成30年1月19日(金)

内容:訪問指導

ii 日時:平成30年1月19日(金)

内容:幼・小連携

D. 竹富町立古見小学校

i 日時:10月6日(金)、11月6日(月)

内容:訪問指導

E. 竹富町立大原中学校

i 日時:10月6日(金)、

内容:訪問指導

市町村	学校名	回数
石垣市	石垣中学校	19
	おおかわ幼稚園	20
	まきら幼稚園	7
	おおかわ保育園	3
	へいしん幼稚園	4
	石垣小学校	4
	真喜良小学校	4
	登野城小学校	4
	八島小学校	3
	いしがき幼稚園	1
	あまかわ幼稚園	1
	石垣保育所	1
竹富町	古見小学校	2
	大原中学校	1
合計		74

## 2) 宮古地域に関わる協働活動

①宮古出前支援平成29年6月(宮古教育事務所と福祉事務所との連携):支援プログラム参加者総数67人

A. 特別支援学級での集団支援活動

日時:6月30日(金)14時~16時半

会場:宮古島市立南小学校

特別支援学級2学級合同での集団支援活動を行った。

参加者:17人(子ども11名、教師3名、支援者3名)

B. 事例検討・協働会議

日時:6月30日(金)17時~18時

会場:宮古島市立南小学校図書室

連携関係部局“トータル支援ネットIN宮古”的メンバーで、宮古の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行った。

参加者:7人

C. 集団支援教室

日時:7月1日(土)13時30分~15時30分

会場:宮古保健所 健康推進室

企画タイトル:「カラーシャワーあそび」

参加者:13人(子ども3人、保護者1人、大学スタッフ4人、宮古支援スタッフ2人、宮古福祉保健所職員1人、見学者2人)

D. 公開講座

日時:7月2日(日)13時~15時

会場:宮古中央公民館

内容:「気になる子どもの理解・子育て・支援・日常・保育・教育のトータルな支援-in宮古」

対象:教員、保育士、保護者、役場職員等

参加者:30人

②宮古出前支援平成 30 年 1 月 (宮古教育事務所と福祉事務所との連携) : 支援プログラム参加者総数 19 人

A. 集団支援教室

日時: 平成 30 年 1 月 13 日 (土)

会場: 宮古保健所 (健康推進室)

企画タイトル: 「ビビるビル」

参加者: 19 人 (子ども 4 人 (うち 2 人は兄弟)、保護者 2 人、学生 4 人、行政 3 名、保育士 1 人、大学スタッフ 5 人)

③拠点型支援

A. 集団支援教室

日時: 平成 29 年 5 月 20 日 (日)

会場: 宮古保健所 (健康推進室)

企画タイトル: 「いろいろ転がせ! ボウリング大会」

参加者: 9 人 (子ども 2 人、本島支援スタッフ 3 人、宮古支援スタッフ 2 人、保護者 2 人)

④拠点型支援

A. 集団支援教室

日時: 平成 29 年 9 月 9 日 (土)

会場: 宮古保健所 (健康推進室)

企画タイトル: 「オリジナルてっぽうであそぼう」

参加者: 12 人 (子ども 5 人、本島支援スタッフ 3 人、宮古支援スタッフ 1 人、保護者 3 人)

3) 国頭地域にかかる協働活動

①国頭出前支援平成 29 年 10 月 (国頭教育事務所との連携) : 支援プログラム参加者総数 42 人

A. 個別相談会

日時: 11 月 3 日 (金) 13 時 30 分 ~ 16 時 30 分

会場: 国頭教育事務所

担当: 浦崎武 (琉球大学教育学部教授)、武田喜乃恵 (臨床発達心理士)

一組の相談時間は 50 分、計 3 組 (4 人) の相談を行った。

B. 事例検討・協働会議

日時: 10 月 21 日 (土) 13 時 ~ 14 時

会場: 国頭教育事務所

連携関係部局 “トータル支援ネット IN 国頭” のメンバーで、国頭の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行った。

参加者: 11 人

C. 集団支援教室

日時: 10 月 21 日 (土) 13 時 ~ 14 時

会場: 国頭教育事務所

企画タイトル: 「いろいろ転がせ! ボウリング大会」

参加者: 21 人 (子ども 6 人、大学スタッフ 3 人、作業療法士 1 人、法務教官 1 人、教師 1 人、福

祉職員 1 人、保護者 6 人、学生 2 人)

4) 中頭地域にかかる協働活動

①トータル支援教室の野外活動体験 (中頭教育事務所との連携)

日時: 7 月 29 日 (土)

会場: 琉球大学構内

プログラム: 琉大探検、そうめん流し、燃えろ紅組! 光れ白組! 紅白大運動会 !!

参加者: 計 43 人 (児童生徒 8 人 (うち兄弟 1 人)、保護者 6 人、学生 22 人、院生 1 人、支援員 1 人、特別研究員 1 人、教諭 2 人、大学スタッフ 2 人)

5) 島尻地域 (慶良間諸島含む) にかかる協働活動

①島尻出前支援 平成 29 年 7 月 (島尻教育事務所との連携) : 支援プログラム参加者総数 51 人

A. 個別相談会

日時: 7 月 8 日 (土) 10 時 ~ 13 時

会場: 島尻教育事務所

担当: 浦崎武 (琉球大学教育学部教授)、武田喜乃恵 (臨床発達心理士)

一組の相談時間は 50 分、計 4 組 (4 人) の相談を行った。

B. 事例検討・協働会議

日時: 7 月 15 日 (土) 13 時半 ~ 14 時半

会場: 島尻教育事務所

内容: 「気になる乳幼児・児童・生徒に関する支援に関する現状と課題」

参加者: 18 人

連携関係部局 “トータル支援ネット IN 島尻” のメンバーで、県内の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行った。

C. 集団支援教室

日時: 7 月 15 日 (土) 15 時 30 分 ~ 17 時 30 分

会場: 島尻教育事務所

企画タイトル: 「いろいろ転がせ! ボーリング大会」

参加者: 29 人 (子ども 12 人、保護者 3 人、大学支援スタッフ 2 人、教員 10 人、法務教官 1 人、学生 1 人)

②島尻出前支援 平成 29 年 11 月 (島尻教育事務所との連携) : 支援プログラム参加者総数 41 人

A. 個別相談会

日時: 11 月 23 日 (木・祝) 9 時半 ~ 12 時半

会場: 島尻教育事務所

担当: 浦崎武 (琉球大学教育学部教授)、武田喜乃恵 (臨床発達心理士)

一組の相談時間は 50 分、計 6 組（6 人）の相談を行った。

#### B. 事例検討・協働会議

日時：11月 25 日（土）13 時～14 時

会場：島尻教育事務所

内容：「気になる乳幼児・児童・生徒に関する支援に関する現状と課題」

参加者：16 人

連携関係部局“トータル支援ネット IN 島尻”のメンバーで、県内の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行った。

#### C. 集団支援教室

日時：11月 25 日（土）14 時 30 分～16 時 30 分

会場：島尻教育事務所

企画タイトル：「びびるビル」

参加者：19 人（子ども 6 人、保護者 6 人、大学支援スタッフ 2 人、教員 3 人、作業療法士 1 人、学生 1 人）

### 6) 那覇・浦添地区（久米島含む）にかかる協働活動

#### A. 集団支援教室

活動内容：琉球大学においてトータル支援教室における子どもたちへの教育実践・発達支援および教員を対象とする特別支援教育支援員実践力の養成支援

共催：中頭教育事務所（場所：琉球大学構内）

### 7) 大学中期計画プロジェクト

図 1 の地域支援プロジェクト計画に基づいて当センターは第 1 次計画から第 4 次計画の地域支援活動を行った。附属小学校の子どもたちの支援を発達支援教育実践センターで複数の子どもたちを対象に定期継続支援を実施した。

事業名：「障害児・者の支援・教育に関わる学生・教員の実践力養成機能の充実と地域の学校や教育行政機関との協働支援を行う地域拠点の構築と地域間の連携・協働」事業

協働機関：八重山教育事務所、宮古教育事務所、宮古福祉保健所、石垣市教育委員会、宮古島市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会、多良間村教育委員会

実施期間：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

### 8) 公開講座

事業名：『気になる子どもの理解・子育て・支援・日常・保育・教育のトータルな支援 -』

協働機関：石垣市、宮古島市、八重山教育事務

#### 所、宮古教育事務所

実施期間：平成 29 年 6 月 11 日（宮古会場：宮古中央公民館）、平成 29 年 7 月 2 日（石垣会場：石垣市立図書館）

### 9) ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）事業

事業名：『離島やへき地と近隣地域の発達が気になる子への幼・小連携による「トータル支援」と地域協働支援』

『離島やへき地と近隣地域の障害児への乳幼児期からの保・幼・小連携による「トータル支援教室」と地域協働支援』

協働機関：八重山教育事務所、宮古教育事務所、国頭教育事務所、那覇教育事務所、島尻教育事務所、中頭教育事務所、宮古福祉保健所、名護市教育委員会、多良間村教育委員会、竹富町教育委員会

実施期間：平成 29 年 4 月～9 月、平成 29 年 10 月～平成 30 年 3 月

#### （4）学校、保育園訪問支援活動

本年は宜野湾市を中心に学校、保育園の訪問支援を行った。保育園を含め 8 学校・園に訪問し相談を受けた。そのうち 8 園は月 1 回定期巡回の訪問支援となった。

### 3. 学生、院生、特別研究員への教育活動

#### （1）実践トータル支援活動

発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちとの活動を通して子どもたちとの関わり方や支援のあり方を学び、将来、発達支援教育、特別支援教育に貢献できる学生や院生を育成すること、子どもたちの支援教育に携わる研究員の実践力を高めることを目的として教育活動を行っている。実践トータル支援活動のなかで「発達支援教育実践 A」、「発達支援教育実践 B」を受講している学生は集団支援に参加し、グループで集団支援活動を企画し、集団支援の実践および集団のなかで個と関わる能力を養う。院生においては「軽度発達障害者支援特論」を受講すると担当する子どもの個別支援の実践力を養うことができ、さらに「特別支援教育特論 B」を受講する院生は個別支援における関わりを整理し分析する能力を養う。センターは子どもたちへの支援活動を通して実践力を備えて教育現場で活躍できる人材を育てる教育を行っている。

## (2) 実践事例研究会

実践事例研究会において、院生、特別研究員が実践事例の報告を行い、特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、臨床心理士、医師、言語聴覚士、大学教員、院生、特別支援教育支援員などの参加によりコメントをもらった。院生においては「障害児臨床心理学特論」の講義に実践事例研究会を位置づけており、発達支援教育の理解を深めるためのアフターカンファレンスを実施している。

### 1) 実践事例検討会による学生・院生への実践教育および特別研究員のリカレント教育

第 116 回、第 121 回、第 123 回、は特別研究員、第 115 回、第 122 回は院生と学生、第 120 回は発達支援教育実践センターの専任教員、第 121 回、第 123 回、は発達支援教育実践センターの相談員が実践事例を報告した。参加者と事例について議論を行い、多面的な意見をもらった。

#### ・第 113 回 実践事例研究会

発表者：特別支援学校教員  
タイトル：『不安の強い自閉症児への対応～安心した生活を自分でつくるために～』  
日 時：平成 28 年 12 月 21 日 18 時 30 分～  
参加者：14 名

#### ・第 114 回 実践事例研究会

発表者：小学校教諭  
タイトル：『問題行動を頻発する高学年の児童への対応』  
日 時：平成 29 年 1 月 18 日 18 時 30 分～  
参加者：16 名

#### ・第 115 回 実践事例研究会

発表者：特別支援教育特別専攻科学生 3 名、院生 1 名  
タイトル：『子どもたちとの関わりから気づいたこと、考えたいこと、深めたいこと～特別専攻科・院生の卒論・修論デザイン発表会』  
日 時：2 月 15 日 18 時 30 分～  
参加者：20 名

#### ・第 116 回 実践事例研究会

発表者：特別支援学校小学部 教諭（特別研究員）  
タイトル：『長期入院している児童

への ADL を高め向かう力を育む指導・支援』

日 時：3 月 15 日 18 時 30 分～

参加者：13 名

#### ・第 117 回 実践事例研究会

発表者：特別支援学校教員  
タイトル：『高等特別支援学校の分教室の現状と取り組みについて』

日 時：4 月 19 日 18 時 30 分～

参加者：16 名

#### ・第 118 回 実践事例研究会

発表者：特別支援学校教員  
タイトル：『知的な遅れのない脳性まひ児の作文学習について～合理的配慮とその課題を考える～』

日 時：5 月 17 日 18 時 30 分～

参加者：11 名

#### ・第 119 回 実践事例研究会

発表者：教員  
タイトル：『育てにくい子どもを育てた親の視点から子どもたちの発達と教育を考える』

日 時：6 月 21 日 18 時 30 分～

参加者：10 名

#### ・第 120 回 実践事例研究会

発表者：大学教員  
タイトル：『トータル支援における集団支援と教育実践の支援と姿勢について』

日 時：7 月 19 日 18 時 30 分～

参加者：10 名

#### ・第 121 回 実践事例研究会（第 21 回特例会）

発表者：トータル支援スタッフ（教員、心理士ほか）  
タイトル：『主体的な他者との関係性の育ちを大切にした実践 - 子どもたちの「向かう力」を考える -』

日 時：8 月 23 日 18 時 30 分～

参加者：7 名

#### ・第 122 回 実践事例研究会

発表者：特別支援教育特別専攻科学生 3 名・教育学研究科院生 1 名

タイトル：『子どもたちとの関わりから気づいたこと、考え

たいこと、深めたいこと』

日 時:11月15日 18時30分~

参加者 :11名

・第123回 実践事例研究会

発表者 :幼稚園教諭(特別研究員)

タイトル:『幼稚園の4歳児クラス  
での子どもたちの記録から  
ふりかえる』

日 時:12月20日 18時30分~

参加者 :9名

## 2) 公開発達支援教育実践セミナー

公開発達支援教育実践セミナー『支援を必要とする子どもたちと「ともに楽しむ」実践と「チーム支援」の充実-トータル支援の実践と子どもたちの「向かう力」により育まれるもの-』

日 時:平成30年1月7日 日曜日 10時~  
17時

会 場:琉球大学 法文新棟215教室

共 催:沖縄県教育委員会

後 援:沖縄県

参加者:約100人

司 会:浦崎武:琉球大学教育学部附属発達支援  
教育実践センター専任

講 師:浜田寿美男(奈良女子大学 名誉教授)

プログラム

午前の部:10時~12時30分

・10時10分~11時30分

・『トータル支援を活かした子どもたちの「向かう力」を育む教育実践とチーム支援』

大城麻紀子(鏡が丘特別支援学校教頭・センター特別研究員)

・『法務教官としてトータル支援を通して考えたこと:「受けとめる力」のかたち』

久志峰之(那覇少年鑑別所法務教官、センター特別研究員)

・11時40分~12時30分

午前の部統括:『子どもの「向かう力」と「受けとめる力」を育む「ともに楽しむ」授業実践』

瀬底正栄(沖縄県教育庁県立学校教育課特別支援  
教育室指導主事)

・コメント 浜田寿美男(奈良女子大学名誉教授)

午後の部:13時30分~17時

・13時30分~14時50分

・『子どもたちを「受けとめる」ことから「向かう力」を考える:トータル支援の実践を通して』

武田喜乃恵(発達支援教育実践センター特別研究員)

・『チームとしての学校と協働による授業づくりを通した「向かう力」の育ち』

崎濱朋子(読谷村立古堅小学校校長・センター特別研究員)

・コメント 浜田寿美男(奈良女子大学名誉教授)

・15時~15時50分

全体総括『トータル支援の実践と子どもたちの「向かう力」により育まれるもの』

浦崎武(琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター教授)

・16時~17時

・講演『子どもたちの「向かう力」と社会への参加のかたち』

浜田寿美男(奈良女子大学名誉教授)

## (3) センター専任教員の授業担当

センター専任教員は、当センターでの取り組みに参加し実践を学ぶことをねらいとして、学部への提供授業『発達支援教育実践A』、『発達支援教育実践B』、を開設している。また、特別支援教育特別専攻科の主任を兼任しており、必須・選択必修授業を担当している。平成29年度は以下の授業を担当した。

学部1年~4年「発達支援教育実践A」、  
「発達支援教育実践B」

「障がい者の教育実践と地域発達支援I」、「障がい者の教育実践と地域発達支援II」

特別専攻科「知的障害者の心理」、「自閉性障害者教育総論」、「障害児心理検査法」、大学院「特別支援教育特論B」、大学院「障害児臨床心理学特論」

大学院「軽度発達障害者支援特論」 大学院「障害児教育の実践研究V」

## (4) センター特別研究員およびセンター事業による研究論文

1月7日に実践研究の公開発表を行った事例を中心にトータル支援活動および事例研究会の研究成果を以下の論文にまとめた。

・平成30年3月 自閉症・情緒障害特別支援学級および通常の学級における快の共有体験に基づいた自立活動の教育実践研究 -自閉症スペクトラム児の他者との関係性の変容過程に焦点を当て

て - (城間すみ恵・浦崎武)

- ・平成 30 年 3 月 障害児の「向かう力」に基づく教育実践と発達臨床支援 - 障害児の理解とトータル支援における実践 - (浦崎武・武田喜乃恵)
- ・平成 30 年 3 月 長期入院している子ども達と「ともに学び」「ともに楽しむ」ICT 交流の実践 - 児童の「向かう力」を引き出す ICT 機器を活用した前籍校との交流及び共同学習 - (大城麻紀子)
- ・平成 30 年 3 月 支援を要する子の居場所形成と学級経営 (瀬底正栄)
- ・平成 30 年 3 月 地域の特色に基づいた障害児の地域支援と実践力養成体制整備 - 特別支援教育とトータル支援における実践 - (浦崎武・武田喜乃恵・崎濱朋子)

## 4. 研究教育活動

### (1) 実践事例研究会

平成 18 年 10 月から月 1 回定期、水曜日に院生、現職教員、コーディネーター、特別支援教育関係者、その他の近接領域の関係者が参加して実践研究を行ってきた。

第 4 回は特例会として麻生武（奈良女子大学現名誉教授）氏、山上雅子（京都女子大学元教授、心理相談室ハタオリドリ）氏がコメンターとして参加された。また、第 11 回には浜田寿美男（奈良女子大学現名誉教授）氏、麻生武氏、山上雅子氏の他、京都の発達研究会との共同研究会が開かれた。第 22 回は京都発達研究会から山上雅子氏をお招きして開催された。また、第 24 回の特例事例研究会では発達支援教育実践センターの研究会メンバーが奈良女子大学に出向き、第 2 回沖縄・京都発達研究会合同研究会が開かれた。関西地区以外にも東北地区、関東地区、中部地区からも参加者が来られた。第 47 回（第 8 回特例会）事例研究会では滝川一廣氏（学習院大学教授）が、第 48 回（第 9 回特例会）事例研究会では滝川一廣氏と浜田寿美男氏をお招きして開催した。

平成 24 年度は、第 59 回（第 10 回特例会）事例研究会で、田中千穂子氏（花クリニック臨床心理士）と古田直樹氏（京都市児童福祉センター臨床心理士）、平成 25 年度の第 66 回（第 11 回特例会）事例研究会で、麻生武氏と別府哲氏（岐阜大学）を、第 67 回（第 12 回特例会）は山上雅子氏を招聘して開催した。第 76 回（第 13 回特例会）事例研究会では古市真知子氏（中部大学）を、第 77 回（第 14 回特例会）事例研究会では山上雅子氏、赤木和重氏（神戸大学）をお招

きして開催することができた。平成 26 年度は第 89 回（第 16 回特例会）事例研究会では村上公也氏（キミヤーズ塾）、遠矢浩一氏（九州大学）、第 91 回（第 17 回特例会）事例研究会では古田直樹氏、浜田寿美男氏を招聘し事例研究会を開催することができた。平成 27 年度は、第 93 回（第 18 回特例会）では愛知淑徳大学へ出向いて神野秀雄氏（愛知淑徳大学 教授）と共同研究を行うことができた。

第 99 回（第 19 回特例会）では、村上公也氏（キミヤーズ塾塾長、元小学校教諭）、第 103 回（第 20 回特例会）では、浜田寿美男氏（奈良女子大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授）、麻生武氏（奈良女子大学理系女性教発共同機育開構特任教授、奈良女子大学名誉教授）、岡田美智男氏（豊橋技術科学大学教授）を、第 112 回では湯浅氏（中部大学教授）、村上公也氏（キミヤーズ塾塾長）をお招きした。本事業による第 124 回では浜田寿美男氏（奈良女子大学名誉教授）をお招きし開催した。

### ・第 113 回 実践事例研究会

発表者 : 特別支援学校教員

タイトル : 『不安の強い自閉症児への対応～安心した生活を自分でつくるために～』

日 時: 平成 28 年 12 月 21 日 18 時 30 分～

参加者 : 14 名

### ・第 114 回 実践事例研究会

発表者 : 小学校教諭

タイトル : 『問題行動を頻発する高学年の児童への対応』

日 時: 平成 29 年 1 月 18 日 18 時 30 分～

参加者 : 16 名

### ・第 115 回 実践事例研究会

発表者 : 特別支援教育特別専攻科 学生 3 名、院生 1 名

タイトル : 『子どもたちとの関わりから気づいたこと、考えたいこと、深めたいこと～特別専攻科・院生の卒論・修論デザイン発表会』

日 時: 2 月 15 日 18 時 30 分～  
参加者 : 20 名

### ・第 116 回 実践事例研究会

発表者 : 特別支援学校小学部 教

- 論（特別研究員）  
タイトル:『長期入院している児童へのADLを高め向かう力を育む指導・支援』  
日 時:3月15日 18時30分～  
参加者 :13名
- ・第117回 実践事例研究会  
発表者 :特別支援学校教員  
タイトル:『高等特別支援学校の分教室の現状と取り組みについて』  
日 時:4月19日 18時30分～  
参加者 :16名
- ・第118回 実践事例研究会  
発表者 :特別支援学校教員  
タイトル:『知的な遅れのない脳性まひ児の作文学習について～合理的配慮とその課題を考える～』  
日 時:5月17日 18時30分～  
参加者 :11名
- ・第119回 実践事例研究会  
発表者 :教員  
タイトル:『育てにくい子どもを育てた親の視点から子ども の発達と教育を考える』  
日 時:6月21日 18時30分～  
参加者 :10名
- ・第120回 実践事例研究会  
発表者 :大学教員  
タイトル:『トータル支援における集団支援と教育実践の支援と姿勢について』  
日 時:7月19日 18時30分～  
参加者 :10名
- ・第121回 実践事例研究会（第21回特例会）  
発表者 :トータル支援スタッフ（教員、心理士ほか）  
タイトル:『主体的な他者との関係性の育ちを大切にした実践-子どもたちの「向かう力」を考える-』  
日 時:8月23日 18時30分～  
参加者 :7名
- ・第122回 実践事例研究会  
発表者 :特別支援教育特別専攻科 学生3名・教育学研究科院生1名
- タイトル:『子どもたちとの関わりから気づいたこと、考えたいこと、深めたいこと』  
日 時:11月15日 18時30分～  
参加者 :11名
- ・第123回 実践事例研究会  
発表者 :幼稚園教諭（特別研究員）  
タイトル:『幼稚園の4歳児クラスでの子どもたちの記録からふりかえる』  
日 時:12月20日 18時30分～  
参加者 :9名

## （2）実践研究公開報告

平成30年1月7日の公開セミナー、トータル支援活動の成果および学校への還元した教育実践について当センターで実施した事業の実践研究の報告を行った。センター、八重山地域、学校現場におけるトータル支援活動の報告を行い、浜田寿美男氏（奈良女子大学名誉教授）に基調講演および実践へのコメントを頂いた。公開セミナーと実践報告会は宮古、久米島、石垣、那覇の地域へサテライト配信された。

## （3）学会発表

特殊教育学会自主シンポジウムにおいて、『障害のある子どもたちと「ともに楽しむ」実践と「チーム学校」の充実 「トータル支援」の実践と「向かう力」により育まれるもの』と題した自主シンポジウムを開催した。

実施日:2017年9月17日（日）

場所:名古屋国際会議場

企画者・司会者:浦崎武（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター）

話題提供者:武田喜乃恵（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター）、崎濱朋子（読谷村立古堅小学校）、大城麻紀子（沖縄県立鏡が丘特別支援学校）、村上公也（キミヤーズ塾）

指定討論者:別府哲（岐阜大学教育学部）、湯浅恭正（中部大学現代教育学部）

## （4）実践研究論文の作成

平成30年1月7日に実践研究の公開発表を行った事例を中心にトータル支援活動および事例研究会の研究成果を以下の論文にまとめた。

- ・平成 30 年 3 月 自閉症・情緒障害特別支援学級および通常の学級における快の共有体験に基づいた自立活動の教育実践研究 - 自閉症スペクトラム児の他者との関係性の変容過程に焦点を当てて - (城間すみ恵・浦崎武)
- ・平成 30 年 3 月 障害児の「向かう力」に基づく教育実践と発達臨床支援 - 障害児の理解とトータル支援における実践 - (浦崎武・武田喜乃恵)
- ・平成 30 年 3 月 長期入院している子ども達と「ともに学び」「ともに楽しむ」ICT 交流の実践 - 児童の「向かう力」を引き出す ICT 機器を活用した前籍校との交流及び共同学習 - (大城麻紀子)
- ・平成 30 年 3 月 支援を要する子の居場所形成と学級経営 (瀬底正栄)
- ・平成 30 年 3 月 地域の特色に基づいた障害児の地域支援と実践力養成体制整備 - 特別支援教育とトータル支援における実践 - (浦崎武・武田喜乃恵・崎濱朋子)

#### (5) 定期刊行物の発行

定期刊行物として「発達支援教育実践センター紀要」を発行している。平成 30 年 3 月には第 9 号を発行した。

#### (6) 研究資料の提供

トータル支援教室の活動に関するこどもたちとの関わりについて報告し、発達支援教育支援セミナーにおいて資料として配布した。

#### (7) 助成金における研究

##### 1) 大学中期計画プロジェクト

事業名:「障害児・者の支援・教育に関わる学生・教員の実践力養成機能の充実と地域の学校や教育行政機関との協働支援を行う地域拠点の構築と地域間の連携・協働」事業

協働機関:八重山教育事務所、宮古教育事務所、宮古福祉保健所、石垣市教育委員会、宮古島市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会、多良間村教育委員会

実施期間:平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

##### 2) ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）事業:地域志向教育推進事業

事業名:『離島やへき地と近隣地域の発達が気になる子への幼・小連携による

「トータル支援」と地域協働支援』  
『離島やへき地と近隣地域の障害児への乳幼児期からの保・幼・小連携による「トータル支援教室」と地域協働支援』

協働機関:八重山教育事務所、宮古教育事務所、国頭教育事務所、那覇教育事務所、島尻教育事務所、中頭教育事務所、宮古福祉保健所、名護市教育委員会、多良間村教育委員会、竹富町教育委員会

実施期間:平成 29 年 4 月～9 月、平成 29 年 10 月～平成 30 年 3 月

#### 3) 公開講座

事業名:『気になる子どもの理解・子育て・支援・日常・保育・教育のトータルな支援 -』

協働機関:石垣市、宮古島市、八重山教育事務所、宮古教育事務所

実施期間:平成 29 年 6 月 11 日 (宮古会場:宮古中央公民館)、平成 29 年 7 月 2 日 (石垣会場:石垣市立図書館)

#### 5. 講師・委員・相談員派遣活動

センター専任 浦崎 武

・八重山地区特別支援教育専門家チーム委員会

期間:平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

・島尻地区特別支援教育総合推進事業運営協議会  
期間:平成 26 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日  
開催日:第 1 回 平成 29 年 7 月 25 日、第 2 回  
平成 30 年 1 月 31 日

会場:島尻教育事務所

・島尻地区地域インクルーシブ教育システム整備事業運営協議会

期間:平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日  
開催日:第 1 回 平成 29 年 5 月 31 日、第 2 回  
平成 29 年 12 月 12 日

会場:島尻教育事務所

・障害児保育巡回指導員 (宜野湾市における障がい児保育巡回指導)  
依頼期間:平成 28 年 12 月 22 日～平成 30 年 3 月 31 日

会場:月・公立保育所:1 所、認可保育園:7 園

・那覇市就学指導委員会

期間:平成 18 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

- ・沖縄県立鏡が丘特別支援学校評議員  
期間:平成29年7月6日～平成30年3月31日  
開催日:第1回 平成29年7月6日、第2回平成29年11月28日、  
第3回平成30年2月7日  
会場:沖縄県立鏡が丘特別支援学校
- ・沖縄県立高等特別支援学校評議員  
期間:平成29年12月14日～平成30年2月28日  
開催日:第1回 平成29年12月14日、第2回平成30年2月28日  
会場:沖縄県立高等特別支援学校
- ・沖縄県発達障害者支援センター連絡協議会  
開催日:第1回平成29年8月31日  
会場:沖縄中部療育医療センター
- ・平成29年度カウンセリング実践講座(特別支援教育)講師  
開催日:平成29年6月9日～平成30年2月2日  
会場:県立総合教育センター
- ・沖縄県教育委員会免許法認定講習の講師  
開催日:平成29年8月22日～23日  
会場:県立美咲特別支援学校はなさき分校
- ・第46回 沖縄県特別支援学校研究大会分科会の助言者  
「生きる力を育む特別支援教育の推進」-自立と社会参加をめざして-  
開催日:平成29年12月15日  
会場:沖縄県立西崎特別支援学校
- ・宜野湾市障がい児等審査委員会  
開催日:平成29年12月21日  
会場:うなばら保育所
- ・那覇市母子保健推進協議会発達支援部会委員会  
開始日:第1回 平成30年1月15日、第2回平成30年2月13日  
会場:那覇保健所
- ・沖縄県特別支援教育推進事業運営協議会  
開催日:平成30年2月7日  
会場:沖縄県教育庁
- ・厚生労働省沖縄労働局実践研修会の講師(発達障害者専門指導監)  
期間:平成25年4月1日～平成30年3月31日  
開催日:平成30年1月25日  
会場:ハローワーク那覇

## 6. センター相談員の活動

### センター相談員の活動

- ・センター個別相談(総数:82件)  
子ども面接:14件
- 子どもアセスメント:55件  
親面接:22件  
教員:5件
- ・琉球大学トータル支援教室の企画・運営、スープーバイズ  
実施日:平成29年1月～12月(計14回)  
場所:発達支援教育実践センター(琉球大学共通教育棟1号館403教室)
- ・各地域でのトータル支援教室の企画・運営  
実施日:平成29年5月～平成30年1月(計10回)  
場所:八重山教育事務所、宮古教育事務所、琉球大学構内、島尻教育事務所、国頭教育事務所
- ・第122回 実践事例研究会『幼稚園の4歳児クラスでの子どもたちの記録からふりかえる』報告
- ・琉球大学 公開講座 講師  
『気になる子どもの理解・子育て・支援-日常・保育・教育のトータルな支援-』  
実施日:平成29年6月11日(日)、7月2日(日)  
場所:石垣市立図書館、宮古中央公民館
- ・特殊教育学会自主シンポジウム  
『障害のある子どもたちと『障害のある子どもたちと「ともに楽しむ」実践と「チーム学校」の充実「トータル支援」の実践と「向かう力」により育まれるもの』と題したシンポジウムにて話題提供。
- 実施日:平成29年9月17日(日)  
場所:名古屋国際会議場
- ・浦添市巡回指導員  
期間:平成29年4月～平成30年3月  
場所:浦添市教育委員会、浦添市内の小学校
- ・公開発達支援教育実践セミナー『支援を必要とする子どもたちと「ともに楽しむ」実践と「チーム支援」の充実-トータル支援の実践と子どもたちの「向かう力」により育まれるもの-』実践報告  
日 時:平成30年1月7日(日) 10時～17時  
会 場:琉球大学 法文新棟215教室